

「第2次都立動物園マスタープラン 中間のまとめ (案)」に対する意見募集の結果

東京都は、令和2年6月11日(木)に、「第2次都立動物園マスタープラン 中間のまとめ (案)」を発表し、東京都ホームページの掲載等を通じて、広く都民の皆様のご意見を募集しました。

貴重なご意見を多数いただき、誠にありがとうございました。

ここでは、お寄せいただいた主な意見の概要と、それに対する東京都の考え方をご紹介させていただきます。

1 意見募集の期間と件数

(1) 募集期間

令和2年6月12日(金曜日)から令和2年7月13日(月曜日)

(2) 意見総数

25通 115件

(3) 集計方法

1通のなかにある、ご意見と考えられる部分を件数としてカウントし、要約の上、掲載しています。

	ご意見 (概要)	東京都の考え方
第1章 マスタープランについて / 第2章 目指す姿と取組の方向について (11件)		
	P. 2に、第2次都立動物園マスタープラン策定の背景として「動物園・水族館は、生物多様性保全の観点からも重要性が高まっています。」とあるが、具体的にはどのような重要性を想定しているのか？	本計画P. 139において、動物園・水族館の社会的役割は自然環境への窓口であるとしています。また、P. 153に示した、WAZAの「世界動物園水族館保全戦略」では、動物園・水族館が希少種の域外繁殖や域内保全、生息地保護などを担うことができる存在であると記載されています。
	P3計画策定の2つの基本的考え方に「世界をリードする都市としての魅力を高める」とあるが、世界をリードする都市としての魅力に貢献すると言える施設は葛西くらいではないか？	都は、都立動物園が、東京の都市としてしての魅力を高めるために欠かせないものであると認識しており、そのことをP. 141～P. 142で示しています。
	<p>第1次都立動物園マスタープランの評価検証結果について、「調査研究機能の充実」とあるが、「充実」を裏付ける具体的な実績評価は？</p> <p>「高度な飼育繁殖技術の継承・発展」が具体的にあったとする実績評価の根拠は？</p> <p>「生態や生息環境を再現し、野生動物の保全について効果的に伝えられる施設を作りました」と主張する根拠は？</p> <p>「環境学習の場としての機能強化」の実績の根拠は？</p> <p>「ボランティア組織と連携して、都立動物園の機能の充実を図ってきました。」とあるが、具体的には何をしたのか？</p> <p>Visit Zoo事業により、4園が一体となって都立動物園の魅力を向</p>	<p>調査研究機能の充実としては、平成23年度以降、共同研究80本、JAZA等での研究発表318本の実績があります。</p> <p>高度な飼育繁殖技術では、ジャイアントパンダやトキ、トビハゼ、東京産両生類、一部の昆虫で繁殖に成功しました。ホッキョクグマでの性ホルモンに関する研究や、ツシマヤマネコの人工授精による繁殖にも取り組んでいます。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>上させたとする効果測定・評価は？</p>	<p>施設整備については、例えば、恩賜上野動物園の「ホッキョクグマとアザラシの海」については、動物が生き活きとくらすような環境を整えることで、活発な行動を間近で観察できるようになりました。また、施設内の観覧通路では、普及啓発パネル等の設置だけにとどまらず、スバーバルライチョウの展示を行ったこともありました。</p> <p>環境学習については、P. 49 に示すとおり、年齢層に応じた幅広い取組を行ってきました。</p> <p>TZV・TSV の持つ来園者に伝える役割と環境学習機能については、日々の取組中で、TZV・TSV の自主性を尊重しながら、連携し充実を図ってきました。</p> <p>Visit Zoo 事業では、集客、多様なPR展開、連携事業の充実等において、総合的に観光資源としての魅力を高めることができました。</p>
	<p>P12 の4つの役割で、「レクリエーション」を『楽しく過ごしながらか、                      「命の大切さ」「生きていることの美しさ」を感じ取ってもらえる場』                      のように狭い定義とすることは「レクリエーション」にはそぐわず、                      むしろ教育の範疇と考える。レクリエーションは都市公園一般の持つ                      機能に沿って考え定義するべき。</p> <p>「種の保存」の説明もふわっとした表現だが、具体的には飼育かで                      個体群を維持するという意味なのか？「教育」もまた種の保存につな                      がる。掘り下げが足りないのではないか？</p>	<p>公園としてのレクリエーションの機能は幅広いですが、本計画は、動物園のマスタープランであることから、JAZAを参照しました。このことについてP. 12に加筆します。</p> <p>種の保存や教育・環境教育の具体論については、それぞれの取組中で示しています。</p>
	<p>動物園の役割に「癒し」「憩い」を。</p> <p>現在動物園は、幼稚園～中学生の学習の場としての役割を全面に打ち出してきていますが、今後はそれ以上に「癒し」や「憩い」の場としての役割が大きくなっていくことが予想されます。</p> <p>動物園の動物に愛着を持って、自分の子供のようにかわいがっている人によって動物園がある程度支えられていることに気が付いてほしいと思います。</p>	<p>本計画P. 15で「目指す姿」として『魅せる』を掲げており、取組の方向として「多様な来園者が快適に過ごせ、ホスピタリティに満ちた、満足度の高い都立動物園を創る」としています。</p> <p>今後、ご意見も踏まえ、取り組んでいきます。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>その動物が死を迎えるとき、心のケアも考えて頂けたらと思います。（具体的にはどのような病状で死に至ったかという情報と、献花台の設置など）</p> <p>今後はシニア層がますます増えていく中で、孤独を癒し、また健康になれる場としての動物園の役割に期待します。</p>	
	<p>概要の下記部分がいい</p> <p>「【各園の目指す姿の実現に向けて】</p> <p>▶ 魅力的な施設の重要性</p> <p>来園者へのサービスを維持し、多様なニーズに応える、適切な施設の更新</p> <p>① 整備・飼育・環境学習部門の連携強化による効果の最大化</p> <p>② 環境負荷の低減を図る</p> <p>③ アニマルウェルフェア(動物福祉)への配慮</p> <p>▶ 来園者・動物・職員にとって安全安心な都立動物園</p> <p>来園者、動物、職員の安全確保に向けた、体制、施設、設備の構築</p> <p>あと、人材育成もいい</p> <p>園館とはなにか？＝保全教育施設＝保全教育とはなにか？＝動物さんとの幸せ共有体験・・・というふうに、戦略理念をズバっと設定して、何を発想・実践するにしても「それに沿う」というふうにしたほうが、ブレないし揉めないしラクだ</p> <p>みんなのできることを持ち寄って、ひとつずつ改善することを楽しむのが、結局が一番早い気がする</p>	<p>本計画P.82の「(1)各園の目指す姿の実現に向けて」は、全ての園を対象とした、マスタープランの実現のための考え方を示したものとなっています。</p> <p>今後、老朽化施設を更新する際には、都立動物園の目指す姿を実現するために必要な環境整備を進めたいと考えています。</p> <p>また、本マスタープランを実現するために、関連した計画を規定し、それに基づいて具体的に取り組んでいくことを、P.17に示しています。</p>
	<p>東京都の動物園は、園長次第で、動物園経営に才のある方が園長になれば、ハードもソフトも、気持ちよく運営され、来園者は満足感を得られますが、動物園経営に向かない方がやられた場合には、来園者のストレスが溜まるだけです。園長が交代しても変えてはいけないものとしてミッションがつけられたと思いますが、見た限り現状では機能していないと思います。</p>	<p>運営の前提となる考え方として、「東京動物園行動宣言」を冒頭に置き、なぜ、都は動物園や水族園を運営していくのかについて示しています。現マスタープランに引き続いての行動宣言であり、今後も、この考え方を踏まえた動物園運営に取り組んでいきます。</p> <p>本計画P.14では、「本計画の体系」を示しています。都立動物園は、この体系に沿って、着実に動物園を運営していきます。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>今後、世界的に「自然環境保護」や「人間と動物との共生」が強い関心領域となり、大規模な投機対象となっていることからこの流れは避けられない。時代の趨勢に配慮した上で、マスタープランでは「単に動物のみを展示・観察・学習する園」ではなく「動物と人間の関係を展示・学習する園」へと変化していくよう目標を設定し直すべきではないか。</p>	<p>本計画P.38に示すとおり、都立動物園では、ただ動物を飼育展示するだけではなく、積極的に情報発信することで野生動物、そして地球環境の重要性を来園者や都民に伝えていきます。都立動物園への来園がきっかけとなって、多くの人々に野生動物や地球環境の保全のための行動を起こしてもらうことでSDGsの達成にも貢献していきます。</p>
	<p>●目指すべき姿                      4つの「魅せる」「伝える」「守る」「極める」が分かりづらい。4つの機能(社会的役割)を表していることが省略されてしまっており、全く理解できない内容になっていることに気づいていないのか。キャッチコピーとして使うのであれば、必ずセットで示すべきだ。しかし、都民や関係者に分かりやすい計画書にするのであれば、キャッチコピーは不要だと思う。</p> <p>●目指すべき姿の文章                      目指すべき姿とはビジョンであり、様態を表現するよう作文されることが通常。今回のプランの文章は、スローガンであり、ビジョンになっていない。</p> <p>●目指すべき姿の順番                      SDGsや「東京動物園行動宣言」などを目標に掲示しながら、「魅せる」「レクリエーション」から始まるのはどうだろうか。現在の順番では、東京都の動物園行政に対して不信感を抱いてしまう。種の保存、調査・研究が内部機能として骨格にあり、その成果として、環境学習の場として活用でき、レクリエーションの場としても機能(対社会的機能)するのではないのか。                      中期計画としての骨格に疑問を感じてしまい、具体的な方策まで細かく目を通すことができなかつた。基本のフレームワークから見直し、独りよがりではない万人が理解できるマスタープランに必ず改編・改訂してほしい。</p>	<p>本計画では、P.15に示すとおり、動物園や水族館が持つ4つの機能をもとに、都立動物園として何を実現していくのかという観点で、『都立動物園の目指す姿』を規定しました。「魅せる」「伝える」「守る」「極める」としましたが、この言葉には、都立動物園が何をしていくのかを端的に示す動詞を置いています。</p> <p>また、本計画においては、「ミッション」や「ビジョン」という言葉を使用しておりません。「ミッション」については、動物園がどのような「場」であるのかを示すものであると考え、「目指す姿」がそれに該当します。また、「ビジョン」については、「取組の方向」がそれに該当します。</p> <p>目指す姿や取組の方向の関係性が伝わりづらいことから、以下の考え方で、P.13～P.15を修正します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画の全体像を理解しやすくするため、「本計画の体系図」を示したのち、「第2次マスタープランでの目指す姿と取組の方向」を説明することとしま</li> </ul>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
		<p>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「魅せる」「伝える」「守る」「極める」は、4つの機能に対応した都立動物園の目指す姿を規定したものであり、優劣はありません。</li> <li>・ただし、全ての取組において、最終的には、来園者にどのように伝えていくのかということが大切と考え、多くの方に来園していただき、動物と動物園のことを知っていただきたいということから「魅せる」が最初に来ています。記載順に関する考え方は、P. 15 に追記しました。</li> </ul>
	<p>基本的な考え方の②に「持続可能な開発目標 SDGs」が掲げられていますが、具体的にどのように取り組むのかがよく分かりません。陸の生き物、海の生き物を守るにはどうしたらよいのか、その行動を促す、具体的な取組がまとめられていない。</p>	<p>本計画P. 161において、各取組がSDGsのどの目標の達成に結び付くか整理しています。具体的な取組事例としては、使い捨てプラスチック製品削減の取組（P. 109）などを紹介しています。今後、本計画の取組の推進が、SDGsの達成につながることを意識して取り組んでいきます。</p>
	<p>全体の印象は「ふわっとした」内容で、具体性がそこそこあるよう でいて実質的に施設運営の具体的な指針となるようなディテールは 何も書いていない、と感じます。マスタープランではその性格上ある 程度止むを得ないことではありますが、これを指針に具体的な運営計 画を立案するにはここで触れられていない極めて基礎的なハードル が色々と存在すると感じます。</p> <p>取り組みの内容として記載されていることはほとんどがこれまでの の現状の記述で、実際には歴史的に後退しているような事業、あるい は同じレベルで停滞しているような事業も、これを全て充実させてい くという「含み」で記載されており、具体的に指標とできるような要 素は「件数」というようなことしか提示されていません。</p>	<p>本計画は都立動物園全体の目指す姿 と取組の方向及び、具体的な取組の例 を示した計画であり、P. 17において、 本計画実現のための各園の具体的な計 画・方針の詳細は、別途、飼育展示計画、 教育普及計画や各園基本方針などで定 めていくこととしています。</p> <p>いただいたご意見を参考とさせてい たいただきます。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
第3章 具体的取組「魅せる」について (33件)		
	<p>P20「都立動物園は、地域の皆様に『も』支えられている施設です。」とあるが、地域の皆様以外誰に支えられているというのか？</p>	<p>都立動物園は訪れる来園者だけでなく、来園せずとも地域の皆様に親しまれた施設であると認識しています。ご意見を踏まえ、P.20を以下のとおり修正します。</p> <p><b>来園者だけでなく、地域の皆さまにも親しまれ、支えられている施設です。</b></p>
	<p>快適な観覧環境とホスピタリティマインドの向上の課題として「飼育部門や管理部門も研修等を通して接客能力の一層の向上」とある。接客能力向上のトレーニングそのものはいいことだと思うが、同時に人を増やさずにできることは限界がある。</p>	<p>本計画P.33に示すとおり、職員一人一人が経営者の視点を持ち、「自分がお招きしたお客様」であればどうするかを考え、主体的に取り組み、ホスピタリティマインドの向上を図っていきます。</p>
	<p>P.24に地域との連携の強化と観光の拠点づくりのこれまでの取組として「島しょ地域唯一の動物園として、島を訪れる観光客を受け入れてきました。」とあるが、これは存在そのもののことであって「取り組み」とは言えない。</p> <p>また、何のために、どこまで連携していくのかについての検討も必要と書くからにはこうした議論を生じる何かがあったと想定されるけれども、懸念がなんなのかももう少し記述がないとこれではわからない。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、P.24を以下のとおり修正します。</p> <p><b>大島公園動物園では、大島町発行の広報誌に毎月動物園情報を連載するなど、地域に根ざした取組を行ってきました。</b></p> <p>地域との連携に関する記述については、都立動物園において、公共施設としての役割を踏まえつつ、様々な連携を図ることで、認知度や集客の向上につながる必要性を示したものであり、具体的な懸念事例を想定しているものではありません。</p>
	<p>「魅せる」の取組1で時代の先端的な施設整備を行ってきたとあるが、時代の先端的なという表現がわかりづらい</p>	<p>ご意見を踏まえ、P.26をよりわかりやすい表現に修正します。</p> <p><b>新たな手法を取り入れながら計画的な施設整備を行ってきました。</b></p>
	<p>環境エンリッチメントが「魅せる」に記載されているが、これは本質的に動物福祉の問題であって、「守る」に入れるべき要素。生き生きとした行動を誘発する場合もあれば、来園者にとっては動物が見にく</p>	<p>環境エンリッチメントは、「魅せる」のほかに、「守る」のアニマルウェルフェア（動物福祉）の項目（P.62～P.65）</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>くなる場合もある。「魅せる」に入れること自体が巷に流布する環境エンリッチメントに関する誤った認識がここでも支配していることを物語っている。</p> <p>「実施方法によっては、動物に危険が及ぶ場合がある」とあるが、そんなものは環境エンリッチメントではない。「環境エンリッチメント」は動物福祉向上のための取り組み。そもそも「環境エンリッチメント」とは何かを理解していないのではないか？</p>	<p>にも記載しています。</p> <p>環境エンリッチメントの取組については、表現が不十分だったため、P. 27 を修正します。</p>
	<p>P. 26 「多くの方が、幅広く参加できるプログラムを強化」と、あえて曖昧な表現を使う理由はわかるが、少なくともどのような性格のプログラムを指すのかがわかる程度の形容が必要。</p>	<p>具体的な取組についてはP. 27に記載しています。</p>
	<p>P. 27 に「各種プログラムは、「都立動物園だからできること・やるべきこと」を念頭に、来園者ニーズも踏まえた企画を実施します。」とあるが、他に何を踏まえるのか??</p> <p>また、「必要経費・必要労働時間などの費用と参加者数や得られる成果などの、費用対効果も考慮します」とあるが、むしろ実施するための費用、労働力、ノウハウをまず検討し、その予算捻出と人的資源育成をどのようにするかを考えるのが先ではないのか？さらに重要なのは、「何人来たか」ではなく、何を伝えようとし、実際にどれだけ伝わったかという利用者評価で効果測定すること。</p>	<p>来園者から「有料でも良いからエサやりをしたい」や、「野生動物とふれあいたい」といった要望をいただくことがあります。しかし、これらの来園者ニーズに応えるだけでは都立動物園として来園者に伝えたいことを伝えることはできず、存在意義を果たすことはできません。今後も来園者ニーズを踏まえつつ、「都立動物園だからできる・やるべき企画」を検討していきます。</p> <p>いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
	<p>P. 28 に「来園者のうち、約半数が無料来園者です」とあるが、有料来園者数を増やしたいのか？それならそのように明確に書くべきでは？あるいは現状を維持するので良いならそのように書くべき。</p>	<p>ここでは、現状、約半数の利用者がこどもであるのに対し、今後少子高齢化が想定されることについての問題提起をしております。ご意見を踏まえ、以下のとおり P. 28 を修正します。</p> <p><b>来園者のうち、約半数が小学生以下のこどもや学校団体です。</b></p>
	<p>P. 28 「来園者を確保するためには」とある。指標としての来園者数の重要性を否定するものではないが、「来園者」を確保するのが都立動物園の目的ではなく、都民にとって存在意義を強く感じられる施設とするのが目的のはず。この言い方で行くと、来園者数の増減だけが指標のこれまでの考え方を抜け出すことができない。(抜け出せていない</p>	<p>P. 28 で示している取組は「多様な来園者を呼び込む取組を強化します」であるため、来園者数について記述しています。都立動物園として、一定の来園者を確保することは、都立動物園の目</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>からこの表現となる。) 一日の適正な入園者数を想定し、入園者数が少ない曜日、季節などにどう対応するかという考え方であるべき。その意味では高齢者に着目しているのは正しい。一方、直後にソーシャルメディアに言及することは高齢者への呼びかけをきちんと考えているのかという疑問も呼ぶ。</p>	<p>指す姿である「伝える」にもつながることから、重要と考えています。様々な取組を進めていく中の一つとして、来園者数は重要な指標と位置付けています。</p> <p>ご意見を踏まえ、P. 28 をよりわかりやすい表現に修正します。</p> <p><b><u>今後も都立動物園に多くの来園者を迎えるためには、こどもから高齢者まで、あらゆる世代を呼び込むことが必要です。</u></b></p>
	<p>Visit Zoo 事業で都立動物園の認知度と魅力の向上を図ってきたというが、効果測定をしているのか？</p>	<p>スタンプラリー参加者数などの実施状況を確認し、翌年度の実施につなげています。</p>
	<p>P. 30 「魅力的な企画の例」とあるが、そう呼ぶ根拠は？</p>	<p>Visit Zoo 事業のスタンプラリーでは他園との回遊性を高め、夜間開園やコンサートでは新たな客層の開拓などにつながったと考えています。</p> <p>ご意見を踏まえ、P. 30 に以下のとおり加筆します。</p> <p><b><u>多様な来園者を呼び込むことにつながった魅力的な企画の例</u></b></p>
	<p>P. 32（取組3）都立動物園全体を俯瞰した施設作りの取組とは？</p>	<p>本計画P. 33において、ユニバーサルデザインに配慮することで多様な来園者がストレスなく利用できる施設を整備するとともに、快適な利用に向けて来園者目線に立った施設の改善を行うとしています。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>P.34 地域との連携を強化することにより、都立動物園の認知度・理解度を上げるとあるが、認知度・理解度が低いというデータがあるのか？</p>	<p>本記述は、現在、認知度が低いということではなく、都立動物園の存在だけでなく、都立動物園の取組を知ってもらい、さらに地域で愛される施設となるべきであるということを示しています。</p>
	<p>P.36 「動物や都立動物園の紹介にとどまらず、野生動物保全や環境保全などのメッセージも同時に伝えるように努め、発信効果を高めていかなければなりません。」とあるが、誰がメッセージを考え、言葉なりなんりの伝える形にするのか、どのような編集・レビューの手続きをとるのか、組織的な対応のあり方を検討する必要があると思う。</p> <p>取組5は媒体のことばかりです。何をどのように伝えるかコンテンツ作成と編集業務・編集責任のあり方をきちんと整理する方が先でしょう。</p> <p>P.37 「雑誌「どうぶつと動物園」では、飼育職員や研究者などが執筆した専門的な記事を掲載することで、都立動物園の様々な取組をより詳しく発信していきます。」とあるが、インセクトariumが廃刊し、どうぶつと動物園は月間から季刊に縮小しているわけですが。</p>	<p>「どうぶつと動物園」については、既存の媒体を使い、専門的な情報を発信していくことを示しており、現状のレベルにとどまらずに、より詳しい情報を発信していきたいと考えています。</p> <p>ご意見を踏まえ、P.37 を以下のとおり修正します。</p> <p><b>今後も都立動物園の様々な取組をより詳しく発信していきます。</b></p> <p>そのほか、いただいたご意見は今後の取組の参考とさせていただきます。</p>
	<p>東山動物園のように民間企業に協力してもらい、もっと魅力的なイベントを増やしてほしい。企業のイメージアップにもつながり、動物の誕生会などのイベントが増やせると思います。</p>	<p>本計画P.35において、民間企業との連携については、その目的や内容などを精査したうえで、都立動物園の事業に資するものに積極的に協力していくとしています。</p>
	<p>多摩動物公園のオリジナルグッズをたくさん売ってほしい。通販もあるといいと思います。アフリカ園のカフェにも売店があると購入率が上がるのではないのでしょうか。</p>	<p>本計画P.32～P.33において、園内の飲食サービス提供やギフトの販売などは、都立動物園の魅力を高める重要な要素であり、今後も、内容・サービスの充実を図っていく必要があるとしています。</p>
	<p>SNS 発信がHP とツイッターだけで、扱う動物も偏りがちになっている。撮影は飼育員さんにも協力してもらい、もっと魅力的な SNS 発信について考えてみてほしいです。</p>	<p>本計画P.36～P.37において、5G技術などの先端技術の活用や、より効果的な媒体・方法を模索しながら情報発信に取り組むとしています。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>「多様な来園者の呼び込み」はインバウンドを意識していると解釈する。個人的には東京五輪は当初から反対のスタンスなので都庁の姿勢は残念である。防疫上もマイナスである。</p>	<p>本計画P. 28～P. 31に示す多様な来園者の呼び込みについては、訪日外国人だけでなく、こどもから高齢者、障害のある方など、あらゆる来園者を対象としています。</p>
	<p>取り組みについては申し分ないと思います。休憩場所・トイレ・展示の工夫など設備的はとても良くなっています。ただサービス精神はないように感じます。</p>	<p>本計画P. 32～P. 33に示すとおり、これまでバリアフリー化やだれでもトイレの設置などの園内環境整備を行ってきました。サービスについては、今後も、来園者の気持ちに寄り添い、ホスピタリティマインドを向上させることにより、都立動物園の魅力を高めていく必要があると考えています。</p>
	<p>QRコードを利用して、多言語の説明を行います。スマホをかざした際に国を判別し、その国の言語を表示する仕組みです。インバウンドへのサービス向上は、もちろん、日本人向けにも有効と考えます。</p> <p>省スペースであり、いろいろな場面で活用できるのではと思います。</p>	<p>本計画P. 36～P. 37において、5G技術などの先端技術の活用や、より効果的な媒体・方法を模索しながら情報発信に取り組むとしています。いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
	<p>全ての都立動物園を屋内・屋外完全禁煙とすべきである。</p> <p>恩賜上野動物園、多摩動物公園、葛西臨海水族園、井の頭自然文化園については既に園内完全禁煙となっており、すばらしい取り組みであるため継続すべきである。</p> <p>ただ、大島公園動物園がある大島公園では喫煙自体が禁止になっているわけではない。「野生動物の保全と環境への理解を促すことで、人と動物がともに生きていくことのできる地球環境を守り、未来に引き継いでいきたい」と考えるのであれば、大島公園も完全禁煙とすべきである。</p> <p>また、「東京から地球環境を考え」るのであれば、都立動物園で勤務するすべての者に対し完全禁煙を義務付けるべきである。また入園者に対しても、喫煙してから一定時間は入園を禁止するべきである。</p>	<p>大島公園動物園では、入場門にも掲出しているとおり、園内での喫煙を禁止しています。本計画P. 32～P. 33に示すとおり、都立動物園は多様な方が来園する公営の施設として、今後とも、誰もが快適に利用できる施設の整備やソフト面での対応強化を進めていきます。</p> <p>職員の禁煙等についてはご意見として承ります。</p>
	<p>「観覧マナーの啓蒙」</p> <p>一部遠足児童などに大勢で動物に向かって叫んだり、物を投げたりとマナーが極端に酷い幼稚園、小学校が見受けられます。教員も指導</p>	<p>本計画P. 32～P. 33において、誰もが快適に利用できる施設であるために、施設の改善やホスピタリティマインド</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>しやすいよう事前に観覧マナーの小冊子を配布する等、マナー啓蒙をしっかりとしていく必要があると思います。</p> <p>「警備員、ボランティアの増員」</p> <p>上述の遠足児童に限らず、日常的にもマナーの極端に酷い来園者は一定数いて（餌やり、フラッシュを当て続ける、場所占拠等々）、これらは園館の評判にもつながり、最悪の場合は来園者同士のトラブルになることもあります。要所要所に警備員やボランティアスタッフを配置し、目に余る場合は注意する体制を整えるのも一考かと思います。</p>	<p>の向上に取り組むとしています。観覧マナー含め、来園者のみなさまから寄せられたご意見・ご要望は、運営方法の改善に活かしています。</p>
	<p>園館が何をやるにしろ、発信（説明）で理解と支援と楽しさ＝保全教育を創出するのが仕事だから、ネット発信とか大変だけど、もっとがんばらないと</p> <p>Twitter 見てたけど、がんばってるね♪</p> <p>Facebook もがんばってほしい♪</p>	<p>都立動物園は、野生動物や地球への理解を深めるためには、ただ動物を飼育展示するだけでなく、多様な情報を発信することが重要であると考えています。本計画P. 36～P. 37において、SNSは、次々と新たなものが登場する中、より効果的な方法を模索し、発信していくとしています。いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
	<p>多摩 放飼場の視野確保のための除草と園道の清掃について</p> <p>夏場に放飼場周辺の除草作業が追いつかず、動物の観れないエリアがあります。限られた期間に限られた人材で除草をしなければならいので、ヤマユリに添え木をするよりも、まず動物の観れる環境づくりに経営資源を投入してほしいとお願いしていますが、いっこうに改善されていません。</p>	<p>本計画P. 32～P. 33において、植栽の適正な管理による緑環境の向上など、様々な視点から、都立動物園全体を俯瞰した施設作りに努めていく必要があるとしています。いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
	<p>「都立動物園マスタープラン」の中に社会貢献意識の高い人の取り込みが、今後の課題としてあがっていますが、動物園水族館野生動物環境に対して、市民の意識を変えていくポイントになると感じました。</p>	<p>本計画P. 38に示すとおり、都立動物園における様々な環境学習プログラムを通して、社会貢献意識の高い方を含め、多くの人に野生動物や地球環境の重要性を感じ、保全のための行動に移してもらうこととしています。</p>
	<p>ライブカメラでの動画配信は、できることなら再開して欲しい。また、ライブ映像での観察にふさわしいその他の動物についてもライブ配信を行って欲しい。</p> <p>これからの動物園では、「ライブ配信」、「実際の観覧」、「HPやTwitter等での情報発信」、ぜひこの3本建てをよろしく願いたい</p>	<p>都立動物園は、野生動物や地球への理解を深めるためには、ただ動物を飼育展示するだけでなく、多様な情報を発信することが重要であると考えています。本計画P. 36～P. 37に示すとおり、</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>と思います。</p>	<p>SNSについては、次々と新たなものが登場する中、より効果的な方法を模索し、発信していきます。いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
	<p>取組2（来園者の呼び込み）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「快適さ」を掲げていますが、来園者側としては「快適だから動物園に行こう」とはあまり思わない気がします。バリアフリーは当然必要ですが、今後の取組として掲げるものではなく、今すぐにも、真っ先に行うべきことです。催しものとしては、「なんか面白そうなことやってる」、「新しいことやってる」などが動機として大きいのではないのでしょうか。そのためには既存の方法に縛られず、思いがけない、新しい取り組みを次々と出していくことが良いと思います。</li> </ul>	<p>本計画P.28～P.31において、レジャーが多様化する中、都立動物園への来園を選択してもらうためには「行ってみたい！」と思わせる取組を強化していく必要があるとしています。今後も展示やプログラムの充実、それらの情報発信などに取り組み、また、地域との連携も強化していきます。</p>
	<p>取組3（快適な観覧環境）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 個人的な要望ですが、園内の売店のクオリティを挙げてほしく思います。食べ物の魅力については、来園者にとって比重の高いものでありながら、比較的容易に解決可能であると思います。動物園に行く前から、「あそこの店でお昼を食べたい」と思わせられるクオリティになれば、来園者も増えると思います。</li> <li>- また、動物園で動物の肉を売るという矛盾について、うやむやにせず、SDGsに配慮した食育に貢献する方法を提案いたします。重要なのは動物園側がこうした矛盾に「自覚的」であることを発信することであり、これにより上述した「園そのものの魅力発信」に繋がると思います。</li> </ul>	<p>本計画P.32～P.33において、園内の飲食サービス提供やギフトの販売などは、都立動物園の魅力を高める重要な要素であり、今後も、内容・サービスの充実を図っていく必要があるとしています。</p> <p>いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
	<p>取組4（地域連携について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 多摩動物園の日野市の裏山を有効活用したり、井の頭公園のボートが乗れるなど、施設との連携も図れると思います。水生物園にある昔の「井の頭と今の井の頭」の展示は、来園者以外の目に入るところに置くこともできると思います。「かつて武蔵野にいた生き物たちと出会う」という側面を強調して、市全体で発信を強化すれば、動物との共生のテーマとして大きな貢献が期待できると思います。</li> </ul>	<p>本計画P.34～P.35において、地元自治体を始め、地域と連携した取組を進めていく必要があるとしています。いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
	<p>動物園側のパンダに対する扱いが商品としての存在ばかりが際立っていた。これだけの話題性を一過性の熱狂的なファンを増やしただけで、野生動物の教育に生かし切れていないのが残念です。</p> <p>けものフレンズのイベントもされていましたが、あれは結果的に異</p>	<p>都立動物園が伝えたいメッセージは、来園しなければ十分には伝わりません。本計画P.30に示すように、動物と動物園のことをより理解してもらう</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	性としてひたすら性的な目で動物を見る人を増やし、個人的に大変不愉快です。	動物園らしい企画で、興味関心を呼び起こし、来園してもらえる取組を進めていきます。
	<p>雨の日の観覧について</p> <p>施設をリニューアルする際には雨の日に来園者が傘をたたんでゆっくりに動物を見れる場所を作って頂けると雨の日でももっと来園者が増えると思います</p>	<p>屋外展示が中心の動物園は、暑さ・寒さや雨・風を避けることが困難です。各園で無料休憩所の整備を進めており、恩賜上野動物園、多摩動物公園では新施設が整備されています。</p>
	<p>「ユニバーサルサービスの向上」</p> <p>日・祝は家族連れが多く、屋内の座席で食事するのも難しい状況です。寒暖や雨風をしのげる屋内施設が少ないと感じました。</p> <p>各種障害をお持ちの方々に園内を回っていただき、バリアフリーの観点で園路整備・移動手段を改善していただきたいと思います。ハード面の改善は長い時間を要しますが、多様性を求める来園者視点での配慮をお願いします。</p>	<p>屋外展示が中心の動物園は、暑さ・寒さや雨・風を避けることが困難です。各園で無料休憩所の整備を進めており、上野動物園、多摩動物公園では新施設が整備されています。</p> <p>本計画P. 32～P. 33に示すとおり、バリアフリー化やユニバーサルデザインへの配慮など、観覧環境整備にも取り組んでいきます。</p>
	<p>このマスタープランを読んで感じる違和感の一つとして、「展示」の捉え方が間違っているのではないかとすることがあります。「展示」は「展示」であり、利用者に「見せる」施設・行為です。「見せる」は「魅せる」につながる、という表現がありますが、展示は媒体であり、動物園水族館にとって展示はそれ自体が学習機会です。しかしながら、このマスタープランを読むと、「展示」は「飼育施設」としかとらえられていないということがはっきり感じられる文章がそこそこに見られます。これは、私が日本の動物園のあり方で感じていることと非常に整合的です。この四半世紀以上多摩動物公園などで作られた展示は「飼育施設」であって展示としての体裁をなしていないものが大半です。動物園としての機能に集中するあまり、都市公園としての機能、あるいは今までなかった機能についての認識がおろそかになっていると考えます。</p> <p>P. 26「展示」を意識した改善とはどういう意味か？展示は二義的ということか？耐震対策をとった展示をつくっているのではないのか？表現が本末転倒している。実際にそのように本末転倒した考え方をしているということの証左と考えられる。さらに、公園施設全体の景観</p>	<p>動物園にとって、動物を「飼育」し「展示」することは、欠くことのできないものであり、様々な取組の原点であると考えています。「飼育」という「管理する」視点と、「展示」という「伝える」視点をどのように両立させるかが重要と考え、本計画でもその発想に立ち記述してきましたが、より明確に示すため、P. 26に加筆します。</p> <p>また、P. 72「極める」の「展示手法」について、飼育技術の中には「展示」の技術も含まれると考えており、どのように来園者に動物を見せ、都立動物園が伝えたいことを伝えるかというのは、磨くべき技術・手法であると考えています。</p>

	ご意見 (概要)	東京都の考え方
	<p>としての調和という重要な問題もある。</p> <p>P.72「極める」(取組16)でも、「展示手法を磨き」とあるが、この文脈では「飼育管理手法」であり「展示手法」ではないと考えます。</p> <p>他にも施設整備、改修・改築は展示施設ではなく動物飼育施設とみなされているという基本的な考え方が見て取れる。これはおかしい。</p>	
<p>第3章 具体的取組「伝える」について (17件)</p>		
	<p>「伝える」の(これまでの取組状況と主な課題)について</p> <p>「今後は、各園の特徴を活かしたプログラム開発と、園内で提供するあらゆるサービスが、環境保全や野生動物保全につながるといった視点を示す必要があります。」とあるが、視点を示すだけでなく効果測定をして検証する必要があります。</p> <p>環境学習は職員全員で取り組むべきものとあるが、環境学習部門を強化できない分を全体責任で補う、という意味でないことを心から祈ります。</p> <p>「展示や解説ラベルは誰でも見られる重要な教育ツールとして、積極的に設置してきました。」とあるが、現実には各飼育職員に任せているのが実情で、どこをどう見ても「積極的」とは考えられません。そもそも片手間でやるべきことではなく専門の人間が扱うべきことなので、適正な予算と人員を配置することなく「積極的」というのはあまりに虫がいい。常設型の学びの情報発信の課題は、専門職を配備し機能強化できるよう組織変更しない限り何をやっても絆創膏です。</p> <p>園外での環境学習プログラムは、運営方法の検討が必要とあるが、だからやめる、ということにならないことを神に祈ります。悪平等にとらわれず、良い活動は残すべき。どうやってより多くの人に参加してもらえるか、という方向であるなら大賛成。</p> <p>教育機関との連携強化について、「プログラムを提供する担当職員には限りがあるため、実施内容を精査していくことが重要」とあるが、事業を成長させるにはどうしたら良いかを考えるのがあるべき姿勢だと考えます。</p> <p>ボランティアに関する課題を本気で解決するには、ボランティアとの協力事業を専業でマネージする専門職が必要です。</p>	<p>園外での環境学習プログラムについては、本計画P.47に示すとおり、限られた人員の中、より良い方法、より効果的なものに集中すべきであるという考えです。具体的な取組の中で検討を進めていきます。</p> <p>ご意見を踏まえ、園外での実施・運営の効果的な方法を検討していくことについて、P.47に加筆します。</p> <p>そのほかのご意見は参考とさせていただきます。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	ボランティアについて、具体的にどのようにボランティア組織をサポートし、サポートされ、連携を強化していくか。	本計画P. 50～P. 51 に示すとおり、研修の実施やコミュニケーションの強化により、より強固な関係を構築していきます。
	P. 43 に書かれていることは全て現状を記載しただけのものと解釈されますが？何を変え、何を強化するのか？	「環境学習プログラム」については、これまで、動物解説員や教育普及係、飼育展示係などの職員により、様々なプログラムや取組がなされ、一定のレベルを維持しています。まずは、これを維持しつつ、発展可能な部分については、より積極的に取り組んでいくものと考えています。
	<p>特設展について、P. 44 「外部機関との連携策の検討を進めることも重要」とは「外注化しよう」ということを都合のいい表現で言い表したように聞こえますが、外注するにしてもコンテンツとデザインをマネージする担当者が中に必要です。</p> <p>また、都立動物園5園が、それぞれ培ってきた知見が組織に根付いているものなのか、それとも異質な個人が持っているものなのか、十分検討の上、異質な人をどのように活かしそのノウハウをどのように組織に根付かせるかを検討する必要があります。</p>	いただいたご意見は参考とさせていただきます。
	P. 45 の各園のデザイン・サインマニュアルはどの程度機能しているのか？	各園では、園ごとにサインの統一を図っており、順次対応予定です。
	P. 48 教育機関との連携強化について、「将来、職業として野生動物保全や自然環境保全を担う人材となってもら」とあるが、そういう働き口、受け皿がまずないと。	本記述については、必ずしも動物園で働く人材のことを意味しているわけではありません。
	多摩動物公園のキーパーズトークがいつも同じ動物ばかりなので、いろいろな動物で行ってほしい。動物によっては全く飼育員さんとの接点がないのもいるので、飼育員さんとお客さんとの関わり方を見直してほしい。	<p>都立動物園では、情報発信において、人が人に伝えるという手法が特に効果的であると考えております。本計画P. 43 において、職員が持つ知見を来園者に積極的に発信していくとしています。</p> <p>ただ、これらの取組には、他の業務との関係で限界があるため、常設型の情報発信や5Gなどの先端技術の活用、</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
		<p>ボランティアによる環境学習活動などと組み合わせることで、一層効果的に伝えることを目指します。</p>
	<p>中高生を対象とした環境教育の強化をすべく、知恵を絞って欲しい。親子連れの安価なレジャー施設のままでは公立動物園の存在意義は益々薄くなる。パンチを効かせた環境教育の場であって欲しいが公立施設としては難しいのだろう。環境教育は幼児からという持論の職員もいる様であるが小学校の高学年にならないと理解できない。</p>	<p>本計画P.49において、都立動物園の中学生・高校生に対する取組の考え方を「科学的視点からの動物観察と動物に対する理解を深める」としています。中学生・高校生は一般に来園する機会が減少してしまう年代ですが、理解力の増すこの年代を都立動物園とつないでいくことが、さらにその先の年代にもつながっていくと考えています。</p> <p>また、こどもたちへの取組についても、本計画P.49の表に示すとおり、それぞれの学齢期に見合った内容を実施していきます。</p>
	<p>動物についての質問の答えがその場ですぐ聞けるといいんですが。（たまたまその場に、給餌に来られた飼育員さんとお話しできたことで次回はその動物を見る楽しみができました。）親切に説明して下さる飼育員さんもいらっしゃるのに残念です。</p> <p>ボランティアの方が大勢いらっしゃるようですが、展示物について質問しても説明はしていただけません。公立であるが故のサービス精神が不足していると思います。職員の方の中にもいらっしゃいますのでそれが普通になっているのかもしれませんが。中には親切に資料を見ながらでも説明してくれる方もいらっしゃるようで、そんなボランティアの方が多数になるといいと思います。</p>	<p>都立動物園では、情報発信において、人が人に伝えるという手法が特に効果的であると考えています。本計画P.43において、職員が持つ知見を来園者に積極的に発信していくとしています。</p> <p>ただ、これらの取組には他の業務との関係で限界があるため、常設型の情報発信や5Gなどの先端技術の活用、ボランティアによる環境学習活動などと組み合わせることで、一層効果的に伝えることを目指します。</p> <p>本計画P.50において、ボランティアの主体性・自主性を尊重し、協働パートナーとして様々な取組を進めていくとしています。いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>「学芸員の常駐」 動物園、水族館が教育施設である以上、学芸員がいないのは根本的におかしいと思います。現在、飼育スタッフが解説等を行っています が十分とは思えず、彼らの負担を減らし、より充実した解説を行う為にも必要不可欠だと思います。</p> <p>「ボランティアガイドの廃止」 専門的な知識のない方がマニュアル通りのガイドをするのは全く意味がありません。これこそ学芸員が行うべきだと思います。</p> <p>「定期的な講義、講演の開催」 今までも、様々な講演が行われてきましたが、少なすぎると思います。教育施設であるというのなら、せめて週末位は、いつでも何らかの講義が行われているぐらいが望ましいと思います。これも学芸員が常駐していれば可能かと思えます。</p>	<p>本計画P.43に示すとおり、都立動物園には解説専門の「動物解説員」がおり、ガイドツアーを実施しています。井の頭自然文化園には学芸員を配置し彫刻園ガイド等を行っています。</p> <p>本計画P.50において、ボランティアは、自らが学びを求めつつ発信にもつなげている能動的な利用者として、来園者に近い立場から相手の立場に立った学びの情報を伝えていくことができる存在としています。</p> <p>都立動物園は、野生動物や地球への理解を深めるためには、ただ動物を飼育展示するだけでなく、多様な情報を発信することが重要であると考えています。いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
	<p>ボランティアの扱いは難しい。ボランティアに対する園の対応もひどいけど、ボランティアもひどい人いる。チューリヒ動物園みたいに講習と試験による管理を徹底するとか、「ルールも厳しいけどちゃんと付き合う」という覚悟をしたほうが得策かも</p>	<p>本計画P.50において、ボランティアは、自らが学びを求めつつ発信にもつなげている能動的な利用者として、来園者に近い立場から相手の立場に立った学びの情報を伝えていくことができる存在としています。</p>
	<p>多摩 各放飼場のポスター、解説展示 および 情報の開示について 個体識別を観察するためのネーミングは、不可欠だと思いますが、園内で展示動物の名前を掲示していない放飼場も、このごろよく見受けられます。来園者は、種を見て個体は観なくていいという園の上から目線の考え方があるのでしょうか？</p> <p>当然、園の出せる情報と来園者が欲しい情報は100%一致しませんが、園が出す情報の選別管理に熱中するあまり、本来、来園者が入手したい情報とは何かということに、意識が回っていないことはありませんか。</p> <p>上記に関連して園外情報開示ゾーンネットについて、「はな子の現況」とその後の園内外情報開示に整合性はあったのでしょうか？ 多摩チンパンジーボンボンをケンタの衰弱にもかかわらず、一緒に放飼したこ</p>	<p>本計画P.45において、動物舎や水槽における情報発信については、常に最新情報に更新するとともに、飼育部門と環境学習部門で伝えたい情報を共有し、園全体として、伝えるべき情報として、情報内容を精査し、発信していくとしています。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>との妥当性に関する考察が十分なされていたのでしょうか?また、昨年の多摩のインドサイの事故についても、現在まで事故の分析等がズーネットで見受けられません。一観察者の所感ですが不十分です。</p>	
	<p>ボランティアさんは、よく来園者に間違っただけの情報を教えてらっしゃることもあり、ガイドでも問題に感じる言動をされる方も見受けられ、ただ数を増やすことは正直に言って反対です。</p>	<p>本計画P. 50において、ボランティアは、自らが学びを求めつつ発信にもつなげている能動的な利用者として、来園者に近い立場から相手の立場に立った学びの情報を伝えていくことができる存在としています。</p>
	<p>「環境学習」と「環境教育」について</p> <p>学習者の主体性を重んじるという意味で「環境学習」という言葉を使っているようですが、教育の分野では系統的に意図的計画的に学ぶことを構成するという意味で「教育」を使います。動物園や水族館も来園者の主体性が活かせるように学習内容を系統的計画的に構築することが必要ですので、「環境教育」であるべきと考えます。</p> <p>COVID-19とこれからくるコロナに対する対応を</p> <p>次のコロナウィルスも予想されます。現在「ふれあい活動」も中止になっています。動物園もそのたびに休園していたのでは大切な動物園教育が実施できなくなります。これは短い幼児期の子どもたちにとりまして、大変なマイナスです。小学生にとりましても学習の機会が失われ、その後の影響が予想されます。新しい時代に向けたコロナ対策も取り入れ、表記して欲しいと考えます。</p> <p>情報発信ツールにつきまして</p> <p>スマートフォンアプリを利用しましたが、意外に面倒でした。そして、それを聞いたら、今、目の前に動物がいるのに観察もしないで、通り過ぎてしまうという逆効果も見られました。その工夫が課題でもあると感じました。</p> <p>教育プログラムについて</p> <p>各動物園に教育普及課があり、「職員全員で取り組むべきもの」という意識改革が必要（P39）とありますが、飼育・繁殖・展示と仕事内容を考えますと大きな負担であると思います。教育プログラムの開発チームやそれぞれの園との共有などについてはどのようになされているのでしょうか。それについても表記されることをお願いしたいです。</p>	<p>本計画P. 13に示すとおり、来園者が主体的に学んでもらうという趣旨で「環境学習」という表現を用いることとしています。</p> <p>都立動物園における新型コロナウイルス感染症対策の元での環境学習の取組については、アフターコロナの時代を見据え、P. 84に加筆します。</p> <p>情報発信については、本計画P. 36～P. 37において、最新技術を活用しながら、さらに効果的な情報発信方法を検討していくとしています。</p> <p>本計画では、計画実現のため、本計画とは別に、「教育普及計画」を策定し、どのような環境学習の取組を行うか、検討していきます。指定管理者である（公財）東京動物園協会が設置する教育普及センターとも連携しながら、幅広い取組を進めていきます。</p>

	ご意見 (概要)	東京都の考え方
	<p>「個体紹介や動物に興味を持ってもらう掲示を増して欲しい」</p> <p>動物園は外国人が日本の動物を観覧出来る場でもあります。日本の動物を通して日本の文化に興味を持っていただく事、動物を通して日本の魅力を発信していただきたいと思っております。展示動物の個体名をパネル等に掲示、野生動物との関わりも含め「魅せる」掲示が増える事を望みます。</p>	<p>都立動物園は、野生動物や地球への理解を深めるためには、ただ動物を飼育展示するだけでなく、多様な情報を発信することが重要であると考えています。いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
	<p>来園者が学べる機会が現状ではまだまだ少ないように感じます。ボランティアによるガイドが決まった時間にしか行われていないので、動物について知りたいことがあっても尋ねる相手がいません。ゾーンの動物図鑑も古いままで、飼育されている動物の基本的な情報が掲載されていないこともあります。</p>	<p>本計画P.38において、都立動物園では、できるだけ多くのことを楽しく伝えることができるよう、解説ラベルや園内でのレクチャー、体験型プログラムなどをさらに充実させていくとしています。いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
	<p>実習生の多くは動物園への就職を希望しており人材育成の面でも極めて重要であり全国の動物園・水族館への就職相談・情報提供も必要だと思います。</p>	<p>本計画P.48において、野生動物保全や自然環境保全を担う人材の育成において、実習の受け入れが重要であるとしています。都立以外の動物園・水族館への就職相談・情報提供は、都立動物園では実施する計画はありません。</p>
<p>第3章 具体的取組「守る」について (20件)</p>		
	<p>東京に暮らす野生動物についての発信につきまして</p> <p>東京に暮らす野生動物は増えているのではないのでしょうか。今後、大学や研究機関と連携し、できるだけ正確な情報を得て、発信してほしいと思います。それによって、私たちの生活にも変化を必要とされるのではないのでしょうか。</p>	<p>ここでは、「東京の野生動物」ではなく、「野生動物」の減少の問題について記載したものです。ご指摘を踏まえ、P.52を以下のとおり修正します。</p> <p><u>IUCNのレッドリストによれば、絶滅の危機にある野生動物種は少なくとも14,234種にも上るとされています。</u></p> <p><u>また、令和2(2020)年9月15日に公表された「地球規模生物多様性概況第5版(GB05)」によれば、「過去10年間にわたる保全の行動が無ければ、鳥類及び哺乳類の絶滅数は少なくとも2倍から4倍になっていた。」とされる一方、「生物多様性の損失要因が劇的に低</u></p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
		<p><u>減されなければ、十分に評価された分類群については約4分の1(23.7%)の種が、全体では100万種が絶滅の危機にさらされることが見込まれている。野生動物の個体数は、1970年以降3分の2以上減少し、2010年以降も減少し続けている。」とされています。このような中、多様な野生動物を飼育してきた動物園・水族館における「種の保存」の場としての役割は徐々に高まっています。</u></p> <p>情報発信については、他の動物園や水族館だけでなく、大学、研究機関などの多様な主体と積極的に連携を図り、飼育動物を活かした共同研究等に積極的に取り組んでいきます。</p>
	<p>動物園・水族館の「種の保存」の責任・義務は、展示動物すなわち外国産動物の取得の中から生まれたものであって、地元の動物の減少から生まれたものではないので、P.52「東京においても、生息する野生動物の減少が進んでいます。こうした野生動物を巡る危機的な状況の中、生息域外で、多様な野生動物を飼育してきた動物園・水族館における「種の保存」の場としての役割は徐々に高まっています。」との文章は誤解を招きます。また、東京では少なくとも哺乳類は増えているのではないのでしょうか。</p>	<p>ここでは、「東京の野生動物」ではなく、「野生動物」の減少の問題について記載したものです。ご指摘を踏まえ、P.52を以下のとおり修正します。</p> <p><u>IUCNのレッドリストによれば、絶滅の危機にある野生動物種は少なくとも14,234種にも上るとされています。また、令和2(2020)年9月15日に公表された「地球規模生物多様性概況第5版(GB05)」によれば、「過去10年間にわたる保全の行動が無ければ、鳥類及び哺乳類の絶滅数は少なくとも2倍から4倍になっていた。」とされる一方、「生物多様性の損失要因が劇的に低減されなければ、十分に評価された分類群については約4分の1(23.7%)の種が、全体では100万種が絶滅の危機にさらされることが見込まれている。野生動物の個体数は、1970年以降3分の</u></p>

	ご意見 (概要)	東京都の考え方
		<p><u>2以上減少し、2010年以降も減少し続けている。」とされています。このような中、多様な野生動物を飼育してきた動物園・水族館における「種の保存」の場としての役割は徐々に高まっています。</u></p>
	<p>トキ、コウノトリ、小笠原など、生息域内における保全に大いに貢献したと同時に動物園で飼育展示する動物の多様性に比べると極めて限定的な事象でしょう。動物園のおもな「目玉」である外国産動物の域内保全にも貢献するよう具体的に何かするのか、それとも主に国内の生息域内を前提とするのか、はっきりさせるべきでしょう。</p> <p>P. 55の生息域内保全の課題にも「海外における生息域内保全にどのような貢献ができるかについては、検討が必要です。」とあるが、こんなところに埋め込むのではなく、全体の前提の中で明確にしておくべきでしょう。東京都、日本、海外で、それぞれどのように取り組むのか、基本姿勢を明確にすべき。</p>	<p>都立動物園における生息域内保全は、P. 66の①～③に掲げている項目に沿って、着実に実施していきます。何に重点的に取り組むかについては、各園の基本方針などの中で明確にしていきたいと考えています。</p> <p>本計画は今後の取組の考え方を示したものであり、どういった地理的範囲の生息域内保全に取り組んでいくかについて、現時点では明確にはしていません。</p>
	<p>P. 66にWAZAのワンプランアプローチについて「都立動物園も、国内外を問わず、そのような取組には、積極的に貢献していきます。」とあるが、具体的に何を意味しているのかわかって言っているのでしょうか？</p>	<p>例えば、ニホンコウノトリでは、「コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル (IPPM-OWS)」に参画し、域内保全・域外保全のそれぞれの主体が連携してニホンコウノトリの保全に取り組んでいます。また、JAZAの活動を通して、様々な知見を提供しています。</p>
	<p>P. 53ズーストック計画の推進の課題について、アニマルウェルフェアは動物の飼育管理の中心の課題で業務の拡大とは見なせない。一方、環境学習は明らかに本来業務外、専門外の領域で、キーパートークの実施のようなこと以外、断じて飼育職員が担当すべき業務ではありません。保全活動は内容によって本来業務の範囲内(繁殖などは範囲内。域内保全への参加は範囲の拡大、ただし業務内容をどう規定するかにもよりけり。)</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>
	<p>P. 55「野生生物保全センターが、都立動物園における希少種保全の中核として取組を進めたことで、「4園一体で取り組む」という気運が</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>醸成されています。」とあるが、まず施設を作れば人がつく、というバブル時代の常識を前提に施設を作ったものの、実際には人がつかず機能していないというのが実態ではありませんか？14年目に「これだけの成果」ではなく「気運が醸成」では話にならないのでは？</p>	
	<p>「動物ファースト」という概念がないのが非常に残念である。案文からはサービス施設として維持していきたいという姿勢を強く感じる。動物福祉に配慮するとあるが、添え物の様に加筆されている印象。動物園動物は終生飼育動物であり、野生由来の種であっても厳密には野生動物とはいえない。「健康に長生きさせる」のが鉄則である。その為、飼育体制の見直しと飼育技術の向上が不可欠だが、どうなっているのか？動物の命を直に背負う飼育管理担当者についての人事的な課題もあると思われる。</p>	<p>アニマルウェルフェア（動物福祉）が重要な概念であると認識していることから、いただいたご意見を踏まえ、アニマルウェルフェア（動物福祉）に取り組む姿勢をより明確に示すため、P.62を以下のとおり修正します。</p> <p><b>全ての飼育動物のアニマルウェルフェア（動物福祉）を推進していきます。</b></p> <p>そのほかのご意見については参考とさせていただきます。</p>
	<p>上野動物園や葛西臨海水族園などに行くと、いろんな動物や魚がいて、それなりの規模があつて、絶滅危惧種のラベルがあつたりしますが、展示を通して地球環境を見つめたメッセージを感じることはほとんどありません。動物を楽しんでくれればいい、というむかしながらのサインを見ることはあります。</p> <p>このマスタープランでは、希少種の保全、自然保護や環境保全といった類の言葉はたくさん出てきますが、現状との大きな乖離を感じます。今後の計画なので、そこは目指すという姿勢に期待します。</p> <p>ただ、どうしてもひとつ気になったことがあります。外来生物問題に関する取組の記載が見当たりませんでした。外来種がもたらす自然環境への悪影響やダメージを伝え、これ以上外来種を増やさないようにしようというメッセージを伝えていくのは動物園や水族館の大切な役割のひとつなのではないのでしょうか？</p> <p>また、市民に対して、多様になったペットについて、適切な飼育指導を積極的に普及・指導する立場なのではないのでしょうか？</p> <p>動物園や水族館が、将来の自然環境や野生動物を守る姿勢を主張するのであれば、外来種問題にもきちんと向き合い、責任を果たしていただきたいと思います。</p>	<p>本計画P.45では、4つの目指す姿のうち「伝える」の取組7の中で、「外来種に関する情報発信にも、積極的に取り組んでいきます」としています。多様になったペットについても同様に、人と動物との関係性など、幅広い視点での取組の中で、必要な情報を発信していきます。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>「真夏のナイトズーの廃止」</p> <p>近年、想像を絶する猛暑が続き、真夏は夜間であってもかなりの高温で、正直つらくて全く楽しめません。また、これほどの猛暑では夏場に残業させられる動物たちにかかる負担も大きいと思います。動物福祉の観点からも真夏の夜間営業は行うべきではなく、やるなら気候も穏やかな秋などにすべきです。陽が短いので早い時間から暗くなるという点もうってつけです。</p>	<p>本計画P.30に示すとおり、都立動物園では、動物のことをより理解してもらうためには興味関心を呼び起こす取組を行う必要があると考えています。</p> <p>夜間開園も来園へのきっかけづくりにつながるものとして実施してきました。アニマルウェルフェア（動物福祉）にも配慮しながら、今後も魅力ある企画に取り組んでいきます。</p> <p>いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
	<p>「魅せる」取組1（魅力向上）について</p> <p>－ 向上すべき魅力は展示だけではなく、園そのものの魅力も発信すべきだと思います。すなわち「観客にとって快適なもの」を発信するだけではなく「動物にとって快適な環境を提供している施設の姿」を発信することで、来園者に、「素晴らしい取組を行っている園だな」と思わせる必要があります。</p>	<p>本計画P.27において、環境エンリッチメントは、動物の生き活きとした行動を引き出すだけでなく、魅力ある展示作りにもつながるとしています。アニマルウェルフェア（動物福祉）は、取組だけでなく、その情報を発信していくことも重要であると考えていることから、ご意見を踏まえP.62に、アニマルウェルフェア（動物福祉）の情報発信の必要性について加筆します。</p>
	<p>動物福祉は、「配慮」ではなく「推進」（ほんとは「徹底的な取り組み）をしてほしい。それこそが全ての基盤だし、そのことにお客さんを巻き込む（参加→実感する）ことが保全教育。動物さんを並べて比較するとか、動物さんの多さをウリにするとか、小さい動物さんを使って「ふれあい」をするとか、考え直す時代だと思う。大牟田市動物園くらい動物福祉に徹底して取り組んだ上での「ふれあい」ならまだしも。そもそも「ふれあい」という名称はおかしいから変えようというムーブメントはこないだ一回すでにあっただけだし。</p> <p>でも、福祉の部分に「選択肢」がたくさん登場している。動物さんに「与える」じゃなくて「用意する」という意識も大事。</p> <p>さらに言えば、動物福祉向上の取り組みを「科学的に評価」「客観的に評価」って、したくなるの分かるけど、現場は選択肢増設だけでも大変で、それを言うともうイヤになってやらなくなる。エンリッチメント大賞の基準に「科学的な評価」が入った時は、翌年から取り下げ</p>	<p>アニマルウェルフェア（動物福祉）が重要な概念であると認識していることから、いただいたご意見を踏まえ、アニマルウェルフェア（動物福祉）に取り組む姿勢をより明確に示すため、P.62を以下のとおり修正します。</p> <p><b>全ての飼育動物のアニマルウェルフェア（動物福祉）を推進していきます。</b></p> <p>また、アニマルウェルフェア（動物福祉）は「取組自体が保全教育コンテンツ」であるとのご意見のとおり、本計画P.27においても、環境エンリッチメントは、動物の生き活きとした行動を引き出すだけでなく、魅力ある展示作り</p>

	ご意見 (概要)	東京都の考え方
	<p>られてたほどだ。科学的な評価にいたるまでの、取り組み自体&amp;途中段階が、すでに超強力な保全教育コンテンツだという意識が有効だ。人は人の努力が大好きだから。</p> <p>動物福祉向上の取り組みに関しては、高山さんの「福祉＝サポート」というアドバイスがオススメだ。</p> <p>大阪の方だから西日本ではすでに園館にアドバイスしてるし、講演も素晴らしかった。</p> <p>大牟田市動物園と盛岡ズーの取り組み&amp;発信に常に触れておくと、そうした考え方・行動の仕方・人気ぶりがよく分かる。盛岡ズーは飼育員さんが楽しそうに改善しまくってる。盛岡ズーの発信は、まだネタ選びとか言葉選びが100%ばっちりではないけど、取り組みは熱い。</p>	<p>にもつながるとしています。アニマルウェルフェア（動物福祉）は、取組だけでなく、その情報を発信していくことも重要であると考えていることから、ご意見を踏まえP.62に、アニマルウェルフェア（動物福祉）の情報発信の必要性について加筆します。</p> <p>動物の主観に立ったアニマルウェルフェア（動物福祉）の実現のためには、客観的・科学的な評価検証が重要であると考え、都立動物園では「5つの領域」モデルに沿った取組を進めていきます。</p> <p>「ふれあい」については、本計画P.42に示すとおり、こどもたちが動物とのふれあいを体験し、動物のぬくもりを感じることは、身近な動物について関心を持ち、環境学習につながる必要な取組であると考えています。今後も動物側の視点に立ってアニマルウェルフェア（動物福祉）に配慮するとともに、「なぜその動物でふれあいをするのか」目的を明確にし、適切な方法で実施していきます。</p> <p>いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
	<p>P.64「以前に比べ、地球環境の変化に伴い、動物園の飼育環境も変化をしています。」はおかしい。動物が快適に暮らすための要件についての人間の知識と判断が変化したのであって、地球環境の変化とは全く別の事象でしょう。</p>	<p>地球温暖化などにより、少なからず、飼育環境にも影響していると認識しており、それを踏まえて、いかに快適な環境を確保するかが重要であると考えています。いただいたご意見を踏まえ、P.64を以下のとおり修正します。</p> <p><b><u>地球温暖化などの影響と思われる気候の変化に伴い、動物園での飼育環境も変化をしています。</u></b></p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>・上野 子供動物園について</p> <p>旧子供動物園 野性味があつて動物にも触れられ、楽しい場所でした。</p> <p>新子供動物園 残った在来馬、牛などは、夏は直射日光をもろに受け、足元は砂地で動きは封じ込まれ、運動するスペースもなく寝小屋は外の車道に向いています。馬の巡回運動をさせるスペースもなく、木曾馬の幸泉も腸穿孔で亡くなりました。トカラヤギと羊の地面はコンクリ、羊は子供動物園開園後、井の頭へ移動しました。</p> <p>現行、施設を見るにつけ、つらいものがあります。動物は、移動する前の住環境よりも、移動した後の住環境が悪いと体調崩すことが多いと思います。はたして新子供動物園は、残った動物にとって前よりも住みやすいところなのでしょうか？</p> <p>一般大衆のイメージに従って展示動物の整備をするよりも、上野ならば一頭当たりの動物の狭いスペースの拡張、多摩ならば繁殖実績の上がらないコアラベアの廃止による他の動物への経営資源投入等も必要と考えます</p>	<p>本計画P.92において、恩賜上野動物園の子ども動物園は、将来の野生動物保全の担い手育成を図るため、体験型のプログラムを重視し、こどもたちに向けた「学び」の機会を深化させていくこととしています。</p> <p>いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
	<p>大型類人猿ファンの者です。多摩動物公園に海外の動物園からボノボを導入してほしいです。もちろん本来の目的は繁殖です。日本の動物園はほとんどボノボを飼育したことがありません。日本でボノボの存在を認知してもらいたいです。</p> <p>また別の話になりますが上野動物園のゴリラのハオコのさらなる繁殖のために海外の動物園からメス2頭くらいを導入してほしいです。ハオコにゴリラの種の保存を貢献してもらいたいです。</p>	<p>本計画P.58～P.59において、都立動物園では、飼育展示計画を策定するとしています。</p> <p>いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
	<p>&lt;アニマルウェルフェア（動物福祉）&gt;～動物たちの日々の暮らし</p> <p>動物園では、動物への餌の与え方にもいろいろな工夫がなされていることが分かりました。それ以外に、野生の世界にはあるはずのさまざまな障害物や天敵回避に使われるであろう動物たち本来の知恵や習性、エネルギーなどを発揮できる、「遊び」のようなものが、飼育下の動物にはもっと必要なのではないかと思います。動物たちの充足感を高める遊具的なものを、一般からアイデアを募集するなど、安全に配慮しながら、自然な形でもっと加えても良いのではないかと思います。</p> <p>&lt;アニマルウェルフェア（動物福祉）&gt;～飼育環境について</p> <p>保守点検や、安全確保、コストその他の点でいろいろ難しいところもあるとは思いますが、動物たちが散策できる通路やスペースを拡張</p>	<p>本計画P.62～P.65において、都立動物園では、動物の主観に立ち、科学的な視点での検討を実施する「5つの領域」モデルに沿ってアニマルウェルフェア（動物福祉）の取組を進めています。</p> <p>アニマルウェルフェア（動物福祉）の向上には、より良い施設だけでなく、より良い管理を行うことが重要だと考えています。本計画P.26～P.27に示すとおり、環境エンリッチメントも積極的に推進していきます。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>するなど、大都会の限られた敷地でもできるだけ動物たちに開放感を与えられる工夫をこれからもお願いしたいと思います</p>	
	<p>施設に関してですが、飼育数に対する面積のことは既に憂慮されておられるようですが、当然、今後の繁殖計画がある種に対しての次世代への配慮もお願いいたします。無計画な繁殖や導入は、一時的な集客にはなりますが、動物福祉の観点からはかけ離れた結果をもたらす例もあります。JAZAのみならず、歴史や実績を積んできたAZAの意見を取り入れていかれた方が間違いも少なく、好結果を生むものと考えます。</p>	<p>本計画P.58～P.59において、都立動物園では、飼育展示計画を策定としています。</p> <p>各種取組においては、世界各国の動物園・水族館や各種機関と連携し、進めていきます。</p>
	<p>新しくできあがるライオン園</p> <p>ライオン園に出れないライオン達の暮らしはどうなのでしょう？相変わらずコンクリートの床と狭い檻の中で過ごす毎日。ライオン園が出来る前と何も変わらないではありませんか。この問題点からどうか目を背けないで何か改善策はないのか考えて欲しいです。</p>	<p>本計画P.62において、都立動物園では、全ての飼育動物のアニマルウェルフェア（動物福祉）を推進していくとしています。</p> <p>また、アニマルウェルフェア（動物福祉）の向上には、より良い施設だけでなく、より良い管理を行うことが重要だと考えております。本計画P.26～P.27に示すとおり、環境エンリッチメントも積極的に推進していきます。</p>
	<p>マスタープランの中で、動物を展示することそのものを「域外保全」とみなすという文言があります。これは「保全」という言葉と矛盾する認定で、絶対に許容できません。ただ動物を展示することは動物を消費することで保全とは全く逆の行為です。現在動物園が保全に対する役割を強調している大きな理由は、動物をもっぱら興味本位の展示として扱っていた時代に、野生動物の消費者、野生動物の絶滅に寄与している存在として（欧米）社会一般からの批判を受けた結果です。</p> <p>（設立当初から野生生物保全を中心に据えた動物園もありますが、稀です。）したがって、動物を飼育展示する際に、その飼育展示行為が直接間接にその展示動物種の保全に寄与していない限り、それを域外保全と呼べる理由はどこにもありません。繁殖させて飼育下で個体群を維持するという取り組みは、「もう野生から取らない」という最も消極的な形での保全への寄与でしかありません。対象種によっては、動物園で個体群を維持することは、野生での個体群が減少したり絶滅したりした時の保険なるという場合もあり、この場合は正真正銘の域外保</p>	<p>ご指摘の通り、「生息域外保全」については、中間のまとめ（案）の記述には、不十分な表現がありました。平成30年10月に改定したブーストック計画においては、生息域外保全を「絶滅のおそれのある野生動植物種を、その自然の生息域外において、人間の管理下で保存すること（ブーストック計画本文P.13）」としています。この定義に沿って、P.52、P.56を修正します。同時に、動物園では、様々な野生動物を飼育しており、それらの個体群を適切に維持していくことも重要であると考え、その手法については、生息域外保全の取組と類似性があることから、本取組の</p>

	ご意見 (概要)	東京都の考え方
	<p>全と言えます。展示イコール域外保全というようにいい加減を通り越して嘘っぱちとしか呼べないような解釈を容認しているようでは都立動物園には未来はありません。</p> <p>これらのポイントは関係者の皆さんはもう一度真剣に考えていただきたい。</p>	<p>なかで、整理してP. 56に加筆します。</p>
	<p>「飼育展示計画」という言葉が出てきますが、この内容は一般に「コレクションプラン」と言われているものです。何を飼育するか、という判断。「展示計画」はどのような展示を作るかという計画なので、「飼育展示計画」という言葉に大きな違和感を感じます。</p> <p>このように「展示」という言葉に、メッセージ性、教育効果などを想定している様子がない。</p>	<p>「飼育展示計画」は、ご指摘のとおり、「コレクションプラン」のことを指しています。この言葉だけでは、表面的には「コレクション」=「収集」ということだけととらえかねないことから、今回、「飼育」し「展示」する計画として「飼育展示計画」という言葉を使用しています。当然、その先に、「伝える」という意味も含んでいます。しかし、その点についての説明が不十分であったため、P. 58 に飼育展示計画とCollection Plan についての説明を加筆します。</p>
	<p>ズーストック計画が始まって約30年になります。再計画が必要と思われる。</p>	<p>本計画P. 60 に示すとおり、ズーストック計画は、平成30年度に全面的な見直しを行い、「第2次ズーストック計画」を策定しました。希少種の維持だけでなく、環境学習の推進や、生息域内保全への貢献など、種ごとの目標を設定し、計画の達成に向けて取り組んでいます。</p>
<p>第3章 具体的取組「極める」について (3件)</p>		
	<p>P. 68「環境や社会情勢の変化に伴い、これまで培ってきた飼育繁殖技術をただ次世代に継承してだけでなく、より適切なものへと研磨し対応していく必要があります。」とあるが、野生生物に関する科学的知見の向上がもっとも大きい要因だと考えます。この文脈では「環境」は自然環境と理解される可能性が高く、また、科学的知見の向上は「変化」とは異質のものです。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、P. 68 を以下のとおり修正します。</p> <p><b>野生動物に関する科学的知見の向上に伴い、これまで培ってきた飼育繁殖技術をただ次世代に継承してだけでなく、より適切なものへと研磨し対応していく必要があります。</b></p>

	ご意見 (概要)	東京都の考え方
	P. 75 で国際会議に参加し、情報交換と共有を図り、世界の動きと最新の情報を得るため、今後も、積極的に海外連携を図っていきとありますが、英語の基礎能力をつける研修などの取り組みが絶対必要です。	いただいたご意見は参考とさせていただきます。
	<p>新しいライオン園について</p> <p>多摩では監視室から見ていて喧嘩が始まってから車で仲裁に入りますが、これでは遅いと思います。人員が足りないのは分かりますが、ライオン達の命を守るためそして喧嘩を避けるために群れに合流出来ないライオンを減らすためにも、監視の車は常駐する事も併せてご検討お願い致します。</p>	<p>本計画P. 62 において、都立動物園では、全ての飼育動物のアニマルウェルフェア(動物福祉)を推進していくとしています。</p> <p>いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
第4章 目指す姿の実現に向けて 施設の重要性 (1件)		
	<p>施設偏重の取り組みに感じました。施設は大切ですが、施設が現状のままでも動物達の QOL を充実させる方法はいくらでもあるはずで、今回の計画ではその辺にほとんど触れていないのが気になりました。古い施設のままでトレーニングは無理だと諦めてはいないでしょうか? 猛獣には訓練は無理だと諦めてはいないでしょうか?</p> <p>是非積極的な取り組みをマスタープランに明記してください。</p>	<p>本計画P. 54 に示すとおり、都立動物園ではこれまでも環境エンリッチメントやハズバンドアリートレーニングに取り組んできました。</p> <p>引き続き、環境エンリッチメントやハズバンドアリートレーニングなどソフト面の取組を着実に実施し、アニマルウェルフェア(動物福祉)の実現に取り組んでいきます。</p>
第4章 目指す姿の実現に向けて 安全安心 (1件)		
	<p>このマスタープランは、動物園が都市公園として災害避難所としての役割を担っているという事実ほとんど触れていません。しかし、施設計画・運営上、災害避難所としての機能が動物園としての機能に著しく制約を及ぼす場合が少なからずあります。また、災害避難所であるという事実を積極的に受け入れ、動物園の機能に取り込むこともできるかもしれません。動物園が担わされた機能の一つとして都民に対して明確化しておく必要があると考えますし、マスタープランの中で明確に位置付けられるべきものと考えます。</p>	<p>都市公園には、レクリエーションや景観形成、環境保全などのほか、防災の機能がありますが、都立動物園はいずれも避難場所として指定されていません。</p>
第4章 目指す姿の実現に向けて 効率的・効果的な経営 (2件)		
	<p>- 現行のサポーター制度ははっきり申し上げて全く魅力がありません。都の予算に依存するばかりでは、そこで働く人間にとっても、動物にとっても厳しい未来になります。いち早く予算の問題を解消するには、入園料の増加(海外の動物園に比べて日本は安すぎます)と寄</p>	<p>都立動物園では、指定管理者である(公財)東京動物園協会によって、都立動物園サポーター制度が運用されています。動物園協会としてほかにも、野生</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	付制度の充実を行うしかありません。	<p>生物保全基金への寄付の受け入れなども行っています。魅力ある制度となるよう、いただいたご意見を共有していきます。</p> <p>動物園の運営に係る経費については、都は、引き続き、必要性を精査し、適切な支出をしていきます。</p>
	<p>マスタープランに書かれている通り、野生動物の一層の希少化と感染症対策などにより海外からの動物入手は年々難しくなっており、保全や動物福祉の必要性から入手した動物の取り扱いについても要件のハードルは上がり続けると考えられます。また、都民や旅行者などにとっての余暇時間の使い道との相対的な競争関係の中で動物園水族館の重要性を維持するためには、ただ漫然と動物を飼育している施設で止まっていることはできません。今後動物園水族館の社会的役割を向上させていくためにはそれに見合った投資が必要となります。これまでのように、「歳入と歳出は別」「収益は悪」という行政の常識にとらわれている限り、事業を成長させることは不可能です。</p> <p>この打破がない限り、必要などころに必要な人材を育成し配置するということもできず、いかに人を増やさずに対応できるか、というダメージコントロールの対応しかできません。</p> <p>これだけの施設を運営し施設の更新をしていくためには相応の収支計画が必要です。マスタープラン中で繰り返し経営環境の変化に触れられていますが、こうした経営環境の変化は今後も動物園水族館の運営コストをますます引き上げる方向に動いていくことは間違いありません。一方、今後税収が増えていくという保証はありません。こうした経営環境の変化に対応しつつこのマスタープランの方向性を現実のものとするためには上記の通りいくつかの根本的な課題を克服することが必要です。この根本的な課題をどう解決するかという議論がまずないことにはこのマスタープランはただの作文にすぎません。</p> <p>その根本的課題とは、主に以下の3点です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算の配分・執行と歳入源（revenue stream）の多様化の問題</li> <li>・ 組織編成と人事労務慣行の改革の問題</li> <li>・ 中長期的な指定管理者制度運用上の問題</li> </ul> <p>運営組織については、東京都は幸い東京動物園協会があったために、</p>	<p>本計画は、都立動物園として「目指す姿」を示し、その実現のために、様々な取組を進めることを示したものです。</p> <p>本計画については、都立動物園が、どのような運営形態であっても、また、財政的な変動があつたとしても、進めていくべきものです。</p> <p>今後も、社会情勢の変化に適切に対応しながら、動物園を運営していきます。</p> <p>ご指摘の意見については、今後、様々な課題を検討していく中で、関係部署と共有し対応していきます。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>東京動物園協会を指定管理者にすることで目先の合理化を達成することができましたが、歳入・組織・人事労務管理など全ての点について東京都の従前のスタンダードをほぼそのまま継承しているので、目先の合理化以上の施設運営の向上に関しては東京動物園協会を指定管理者とすることで事業・市民サービスがより良いものになったとは言い難い（向上はそれ以前のカーブの延長上に止まっている）と言って良いと思います。地方独立行政法人の制度も、それはそれで問題があるため見送ったと理解しています。計画課がわずか数名で5園の運営を統括することは不可能であり、(公財)東京動物園協会の事業者としての自主性と独自の企業家精神を生かしつつ、その事業が東京都の事業としての枠を逸脱しないよう監査する方法を見出す必要があります。スイスのチューリヒ動物園などは理事会に市の代表者が入るという形で事業運営に参加しています。歳入の問題、組織の問題などを克服するために、指定管理者制度をどのように使うか、あるいは何か他のPPPの形があるのではないかと、ということを地方行政をリードする東京都として検討し改革案を見つけることを強く期待します。</p>	
<p>第4章 恩賜上野動物園の目指す姿と取組の方向について（2件）</p>		
	<p>上野動物園に「日本を代表する」という自覚があるのであれば、狭い敷地にあれもこれも展示するのは終わりにしてほしいと思います。あの狭さで動物本来の行動が表現できるとは思えません。</p>	<p>本計画P.90において、恩賜上野動物園は、大都市の中心部に位置する動物園として、コンパクトでありながら、アニマルウェルフェア（動物福祉）と動物の飼育展示を両立するとしています。</p> <p>本計画P.58～P.59に示すとおり、飼育展示計画を策定し、限られた施設を有効に活用していきます。</p>
	<p>改築が進んでいるのですが以前から気になるのは西園の大型動物の施設です。特にカバ舎はスペースも含めエンリッチメント、動物福祉の面でも問題があります。一部の動物を多摩や葛西に移すなどして敷地を確保した上で新施設を計画して頂きたい。</p> <p>在来家畜について、上野動物園では馬を中心に在来家畜の展示に力を入れているのでマイスター計画にも加えて頂きたい。訪日外国人の来場も増えておりこうした来園者に向けて有効な展示でもあるのでできれば日本犬や日本鶏にも広げて展開すると良いと思います。また馬</p>	<p>本計画P.92において、「このエリア（水辺と草原エリア）は老朽化した施設が多いことから、現状把握を行い、結果を踏まえ、本計画の考え方に沿った改修・改築に向けた検討を進めていきます」としています。</p> <p>子ども動物園は、本計画P.92に記載の取組のほか、在来家畜の展示をと</p>

	ご意見 (概要)	東京都の考え方
	は役用家畜なので流鏝馬や障害飛越など実演があるとなお効果があると思います。	して動物と人との関わりを考えるきっかけを与えることも役割の一つです。ご意見を踏まえ、子ども動物園エリアに在来家畜について加筆します。
第4章 多摩動物公園の目指す姿と取組の方向について (1件)		
	<p>・多摩動物公園オーストラリア区の充実について</p> <p>多摩動物公園のコアラ館の改築をお願いしたいです。35年の歴史を持つ多摩動物公園のコアラ飼育ですが、最近は何の園に比べると少し寂しい感じがします。多摩動物公園にとっても、コアラは動物園の顔の一つだと思います。他の園のように、コアラたちが生き活きとした姿を見せられるような飼育と展示を期待します。</p>	本計画P.99において、オーストラリア園エリアでは、オーストラリア地域の特徴的かつ魅力的な野生動物の展示を行っていくとしています。
第4章 葛西臨海水族園の目指す姿と取組の方向について (1件)		
	葛西臨海水族園の6つの『機能』とマスタープランの4つの『社会的役割』について、「4つの役割」がそもそも相互排他的な分類ではないので、このマスタープランそのものでも若干の混乱を招いているように見受けられます。その点では、6つの機能が4つの役割のどこに貢献するか、一つの機能が複数の役割の下に割り振られると同時に一つの役割の中に複数の関係機能が含まれる、という形で整理するのが最も合理的と考えます。	いただいたご意見は参考とさせていただきます。
第4章 井の頭自然文化園の目指す姿と取組の方向について (4件)		
	<p>119頁</p> <p>「身近ないきもの体験エリア」に「無料休憩所の整備」とあり、動揺している。はな子さんの生きた場所を一掃することは断じて許容できない。何が何でも休憩所を作るといっているのであれば熱帯鳥温室の跡地にして頂きたい。はな子さんや独りで生きているゾウを伝えるハードは尊重して貰いたい。何れにせよ、北側は住宅地であり、平屋で且、小さいものでないと武蔵野市から圧力が掛かる。</p> <p>「充実したふれあい体験を通じ、野生動物を守る心を育む園をつくる。」とは119頁の「身近ないきもの体験エリア」の「ふれあい機能の充実」のことを指すのか？何を以って「ふれあい」としているのかが不明。尚、人間が一方的に動物に触る行為はこれから益々批判的になることは心得るべきであろう。</p>	<p>本計画 P.119 において、身近ないきもの体験エリアでは、親しみやすい動物や身近に暮らす日本産動物、家畜などの飼育展示やふれあいなどの環境学習プログラムにより、生命の尊さを感じ、動物の能力や修正、人と動物との関わりを知ることができる場を創出していくとしています。</p> <p>また、本計画P.42～P.43に示すとおり、都立動物園では、こどもたちが動物とのふれあいを体験し、動物のぬくもりを感じることは、身近な動物に関心を持ち、自然や動物を大切にすること</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
		<p>につながると考えています。同時に、動物との「ふれあい」については、アニマルウェルフェア（動物福祉）にも配慮し、目的を明確にしたうえで実施するとともに、動物が受けるストレスや、参加者がふれあいで得られる効果の検証に取り組んでいきます。</p>
	<p>文化園の中に日本を代表する彫刻家である北村西望氏のアトリエや彫刻作品群が存在していることは残念ながらあまり知られていないように感じます。そこでこの際、園内南側に位置する3棟ある既存建物（アトリエ館、彫刻館A、B）を大幅に改装し美術館として、北村氏の彫刻作品のみならず、多摩、武蔵野市在住のアーティストの作品や多くの芸術作品の展示、鑑賞できる施設として開発していただけないでしょうか。</p> <p>さらに現在閉鎖されている南門を開放し入場ゲートを設置すればさらに認知度、集客度はアップするものと思います。</p> <p>井の頭自然文化園が多くの年代の人が愉しめる場所となり、ほかの都立動物園とは少し違う魅力ある場所になっていくように望んでいます。</p>	<p>本計画 P. 119 に示すとおり、彫刻館のある「井の頭の自然と文化の交流エリア」は、動物の飼育がされていないため来訪者が少ないエリアですが、いきもの広場や彫刻館などの認知度を上げ、利活用することで、人々が集まり出会う場としていきたいと考えています。</p> <p>いただいたご意見も参考とさせていただきます。</p>
	<p>井の頭自然文化園について、マスタープランを拝見して、将来に不安を感じました。動物園として「日本の野生動物の飼育展示を重視している」なら、もっとタヌキやキツネ、イタチ、それにアライグマなどをちゃんと見せて欲しいです。リスは確かにかわいいし、面白いです。でも、かわいい！おもしろい！だけの動物園は、そろそろ脱却して欲しいです。人気動物で稼ぐのではなく、もっと違う魅力を充実させて、文化園の名前にふさわしい施設にして欲しいです。これでは財政難と老朽化を極めつつある小さな地方動物園と同じです。</p> <p>小さいころに親しんだ、子や孫を連れていったあの遊園地スポーツランドはどうなってしまうのでしょうか？老朽化が進んでいるのではないかと心配ですが、将来を見据えたマスタープランなのに、プランが示されていないように見えるのはどういうことなのでしょうか。</p> <p>歴史と東京都の看板を背負い、吉祥寺の街にもふさわしい、「日本産の動物展示なら井の頭自然文化園」と言われるくらいの自負を持って整備してもらいたいと思います。地元の自慢の文化園となって欲しいと切に願います。</p>	<p>本計画 P. 118 において、井の頭自然文化園では、日本に生息する動物の飼育と保全や、日本の野生動物の現状の啓発に積極的に取り組むとしています。「武蔵野の暮らしといきもの探検エリア」では、今後、里山の原風景を再現した展示の整備を進めていきます。</p> <p>その他のご意見については参考とさせていただきます。</p>

	ご意見 (概要)	東京都の考え方
	<p>取組の方向の守るに「動物の暮らしを実感し、共に生きている仲間であることを実感できるような展示」とあるが、この内容は、「魅せる」か「伝える」の項目にリストされるべき内容。「極める」との関係性を吟味すべき。</p>	<p>ここでは、「共に生きている仲間であることを実感できるような展示」を作っていくために、本計画の目指す姿である「守る」の取組 11「生息域外保全を推進」や取組 12「飼育展示計画の策定」、取組 14「アニマルウェルフェア(動物福祉)を推進」などに沿った取組を行うことを示しています。</p>
<p>第5章 都立動物園マスタープランの実現に向けて 確認について (1件)</p>		
	<p>今のままでは、ほとんどすべてが件数で仕切られており、それぞれの項目の確認指標も、確認指標というよりはざっくりした「目標」とどまっています。実際に伝わっているかの効果測定とつながりますが、まず、「確認指標」そのものを「具体的に計測可能なもの」として表記できるまで掘り下げることが必要だと考えます。この、計測可能な確認指標を作る、ということが確認項目の一つであってもいいわけです。要するに、一つの確認項目で毎年計測するのではなく、一年毎に何を達成するかという目標を作らなければいけないということです。こうした目標を作らなければ実行も難しいというのは認知科学などで広く知られていることです。</p> <p>たとえば、展示改善を件数で評価するのはかなり問題が多い。改善が必要なものの緊急性の優先順位をリストアップし、それと改善実施の難易度とを勘案し、一年毎の目標を作って管理するという方法の方が良いはず。そうでないと、重要なことには手をつけられず、どうでもいいことをたくさんやったほうが評価が高くなるという矛盾を生む。</p>	<p>動物園の取組の成果を定量的に計測することは困難ですが、様々な取組の成果を、一定程度明確に把握していきたいと考えています。ご指摘のように、目標を設定し、その達成に向けて取り組んでいくということも重要ですが、その目標設定自体が難しいものが多いと考えています。</p> <p>そういった中、本計画では、いくつかの定量的に把握可能な要素を指標とすることで、それを包含する全体像を把握することとしました。</p> <p>今後、それらの指標の有効性については、毎年のマスタープランの確認の中で検討を行っていきます。また、外部有識者の意見も聴取することで、実効性を担保していきます。</p>
<p>第5章 都立動物園マスタープランの実現に向けて 地球環境を未来につなげていくために (6件)</p>		
	<p>東京都の動物園は、日本のリーダーとなる動物園だと思います。東京都の役割として動物園の計画設計から維持管理に至る様々な技術的ノウハウを持っていることから、これを各地の動物園に提供し、日本の動物園全体の技術基準となることが求められていると思います。</p> <p>今回のマスタープランにおける「魅せる」と「極める」の部分には非常に素晴らしい取り組みだと思います。これを都だけではなく日本全体に広げていかないと日本の動物園の将来は非常に危ういでしょ</p>	<p>都立動物園は、日本最初の近代動物園の運営を国から引き継ぎ、以降、国内の動物園・水族館を牽引してきました。本計画 P.143 に示すとおり、本計画における取組を広く国内外に発信し、地球環境の保全に貢献していきます。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>う。</p> <p>そういうノウハウを常に持っているのは厚い人材と常に再整備を続けている東京都にしかないものです。日本中の園のリーダーとして21世紀の動物園の在りようを議論し、形にし、その過程や細かいノウハウまでをできるだけ形式知として発信して行ってほしいと思います。いずれ国内での動物のやりとりにも世界から厳しい目が注がれていくと思っています。</p>	
	<p>P.139「社会的役割は、時代の変化に伴い高まってきています。都立動物園は、今後も想定される社会環境の変化とそのニーズに的確に対応していかなくはなりません。」とあるが、このマスタープランでは時代のニーズを先取りしたものはできません。なぜなら時代の変化を後追したのだからです。これからどう変化するか、そこにどう対応するか、その対応法にはどのようなオプションがあるか、そうした考えかたをしなければここに書かれているような「的確な対応」は不可能です。</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>
	<p>P.140「上野公園が震災時に50万人もの避難民を受け入れたことから、災害時の都市公園の有効性が実証され」とあるが、『避難所としての』有効性とすべき。</p>	<p>一般的に、公園は、避難場所としてだけでなく、防火帯としての機能も有しているため、ここでは、広く災害時の有効性について記しています。ただし、災害時の対応については、来園者の避難誘導も含め、訓練を実施するほか、発災時の連絡体制、誘導手順の整備を行っています。</p>
	<p>P.141「都が動物園・水族園を運営する意義と役割」について</p> <p>「首都東京の都市力を維持し、高めていくこと、ひいては、日本の国際競争力を高めることにもつながり」とあるが、現在では可能性は可能性にとどまり実現される気配は見えません。是非とも「都市力と日本の国際競争力の向上」に具体的に資する施設として運用されるよう祈ります。</p> <p>また、「非営利性の高い取組を行っていく必要があります、それを数多く実施することで、より効果的に動物園・水族館が持つ4つの社会的役割を一層強力に果たすことができます。そのためには、都が、都立動物園を、安定的・継続的に、公の施設として確実に運営していくことが不可欠です」とはその通りですが、税収の伸びが期待できない現</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>実の中でどのように事業を成長させていくかを考えることがマスタープランの本質であって欲しかったと思います。いかに都立としての財政および組織の基盤を確保しつつ、時代の要請に応える柔軟性と適応力を発揮するための歳入の多様化と運営法の改革を実現するかが最大の課題です。</p>	
	<p>現在ミュージアムの世界では、認知症などの障害を持つ人たちとその介護に携わる人たちに、美術作品とそのコンテクストを使って、自己表現の場、くつろぎの場など生活を豊かにする機会を提供する試みがはじまっています。水族館では日本国内でも自閉症の子供たちが楽しく過ごせるプログラムを提供する試みが実施されています。</p> <p>4つの社会的役割に沿った、非営利性の高い取組の例に「社会的包摂を実現する施設として、老若男女、障害の有無、経済格差などに関係なくすべての人に開かれている」とあるが、このマスタープランのリーダーから外れたところに、このポイントに目を向けた役割があると考えます。人の心的健康・心的福祉の向上に関わる役割です。</p> <p>ガチの環境学習だけでなく、このような形で市民の生活を豊かにする機能を果たす潜在的力を動物園や水族館は持っているはずで、その潜在力を認識し、それを実際のプログラムとして提供することが望まれます。</p>	<p>本計画P. 141～P. 142において、都立動物園は、社会的包摂の実現など、非営利性の高い取組を継続するためにも、公の施設として運営していくことが不可欠であるとしています。</p> <p>いただいたご意見は今後の取組の参考とさせていただきます。</p>
	<p>P. 143「都市としての発信力を生かし、国内外に向けて野生動物保全の取組を発信する」には、正直なところ、疑問を抱かざるを得ません。発信は主に東京動物園協会が公益事業課の活動で行ってきたことが基盤であり、指定管理者となったことでその活動がより活発化したとはとても考えられません。国外に向けてどれほどの野生動物保全の取り組みに関する発信をしてきたか、CPSGの年次総会に毎年人を送ってきただけではその証拠にはなりません。</p> <p>どのように「本計画における取組を、広く国内外に発信」していくのか、注目しています。</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>
<p>参考資料（2件）</p>		
	<p>アニマルウェルフェア(動物福祉)に関する状況に、WAZAが会員である地域協会・国別協会の全てを対象に準備を進めている動物福祉アセスメントに関する記載がありません。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、令和元年にWAZAが地域別・国別協会会員に動物福祉評価プロセスを設置することを求めたことについて、P. 150に加筆します。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	P.150 population management は個体「群」管理であり、個体管理ではありません。個体管理と個体群管理は内容が全く異なるものです。	ご指摘のとおり、記述が不適切であったため、P.150 を以下のとおり修正します。 <b>個体群管理方針</b>
その他の意見（10件）		
	冒頭の「動物」の表現について、生物の分類は年々更新されていますが、サンゴは現代のいかなる分類法に照らしても動物です。	ご指摘のとおり、サンゴは無脊椎動物です。正確な分類に基づいて修正します。
	- 飼育員のホスピタリティマインドは既に非常に高いと思います。一方で、飼育員の労働環境の悪さ（特に給与に関して）は、他の業種から見ても目も当てられない状況だと思います。飼育員の待遇は改善すべきだと思います。	人材の育成については、都としても、非常に重要と考えており、P.142において「それぞれの取組を担っていく「人」が重要となります。」としています。
	現場の飼育スタッフさんは他県と比較しても、飼育数から見てとても少ないと思います。現代の飼育は餌やりと掃除だけをしているわけではないので、少人数で業務にあたっては過労や事故に繋がります。	建設局所管の4園については、指定管理者である（公財）東京動物園協会が管理・運営しており、職員の勤務条件等は、指定管理者が関係法令に則り、適切に措置すべきものと考えています。
	「サービス向上の為に職員全体の待遇を良くして欲しい」 現場の飼育員・獣医師等の業務量超過が懸念されます。職員の待遇改善は、飼育技術や全体的なサービス向上及び動物福祉に繋がると考えています。	また、適切に業務が行われているかについては、定期的な報告を受ける中で、都として確認しています。
	「飼育員の増員」 どこの園館も、明らかに人が足りていないように見えます。現状の体制では十分な動物福祉が行えるとは思えません。 「非正規飼育員の廃止」 委託業務による飼育員を三年で解雇しては、技術や経験の継承もなされないし、何より労働者の福祉がしっかりとしていなければ動物福祉どころではないと思います。 「ワンオペレーションの禁止」 大型動物、猛獣のワンオペは大きな事故につながる可能性も高く、未然に防ぐためにもバディー制度にするべきだと思います。	いただいたご意見は指定管理者とも共有し、参考とさせていただきます。

	ご意見 (概要)	東京都の考え方
	<p>「獣医師の増員」</p> <p>特に上野動物園や多摩動物公園は、飼育動物種、数に対する獣医師の人数が少なすぎると思います。また、葛西臨海水族園は水生物の経験が全くない方が行っているとも聞きます。体制の根本的な見直しが急務だと思います。</p>	
	<p>OJT に再三触れられていますが、マスタープランでやろうとすることに見合った人員育成と組織構成は、今と同じ職員数では不可能です。単に数の問題だけではありません。これまで日本の動物園は獣医・畜産・農林・造園・建築のフィールドで運営されてきましたが、生物学・教育学・コミュニケーション・デザインなどの分野は運営組織の構成にほとんど反映されずに現在に至っています。このマスタープランで描かれるような内容を「本当に」実現するためには、それぞれの分野について、専門的な知見を持つ人材を育成し、その人たちの経験を積み上げなければできません。動物園・水族館の運営は病院や大学の運営と同じことで、ジェネラリストの集まりでは運営できず、専門分野を受け持つエキスパートがいることが不可欠です。担当を変える、本庁に出向して勉強する、というような人事労務慣行には相応のメリットがあることは間違い無いと考えますが、同時に、専門分野のエキスパートを育てるための組織づくりをしていかないことには、世界標準に追いつくことは一生できません。</p>	
	<p>情報開示についてはどのようなスタンスなのか。都立動物園は比較的、情報開示には後ろ向きで日頃から不気味さを感じている。</p>	<p>都立動物園は、野生動物そして地球への理解を深めるため、多様な情報を発信することが重要であると考えています。本計画P.45に示すとおり、情報内容を精査し、伝えるべき情報を発信していきます。</p>
	<p>【①専門職としての飼育員・獣医師を配属する】</p> <p>長期間パンダの飼育を担当する専門家の育成を検討して頂きたいです。</p> <p>【②シャンシャンのこと】</p> <p>〈返還期限の再延期〉</p> <p>シャンシャンには上野にいて欲しいと本当に大勢の人達が願っています。シャンシャンの年内中国返還に悲痛な思いを抱く人達がとてもたくさんいるのです。返還期限の再延期をお願いします。</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>

	ご意見（概要）	東京都の考え方
	<p>《クラウドファンディング》</p> <p>シャンシャンが中国に行っても、上野動物園に帰って来られるように(中国に返還ではなく、短期留学で上野に戻れるように)、クラウドファンディングプロジェクトを立ち上げて頂きたいと心から切望致します。</p>	
	<p>残念ながらコロナ再開後は、強制的にパンダ舎経由してからでないと他のエリア観察が出来ないとのことなので、上野には行っていませんが、果たして来園者のパンダを観ない権利まで園が侵害できるのか？</p>	<p>いただいたご意見は参考とさせていただきます。</p>
	<p>全体的に、抽象的な表現やカタカナ語が目立ちますが、しようとしていることをそれで本当に表現できているかどうか疑問です。</p>	<p>本計画において、専門用語などについては、注釈も活用してわかりやすい表現を心がけています。</p>